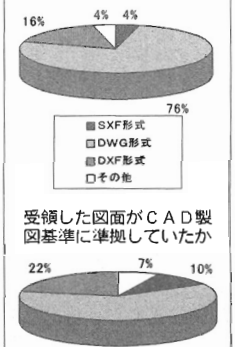
電子納品、土工協会員アンケート

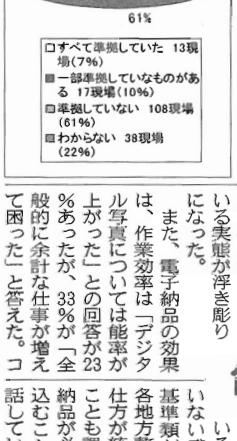
CAD図面 SXF対応は4%

日本土木工業協会（土工協、葉山莞児会長）は、電子納品の実態を把握するために、会員企業を対象にアンケート調査を行い、このほど結果をまとめた。受注企業が発注側から渡されたCAD図面が「SXF形式」だったのは、わずか4%で、「すべてCAD製図基準（案）に準拠している」とした答えも7%しかなかった。また、納品の際には「CAD製図基準（案）に準拠せず、そのまま納品した」との回答が74%を占めた。調査結果を見る限りでは、発注段階でのCADデータの不備が、納品段階でのデータ精度にも影響するという悪循環が生じている。また、「竣工後に一括して現場で（データを）まとめて納品した」との回答が41%あり、電子納品によって「コストアップになった」との答えも68%に上った。土工協の現場情報ワーキンググループリーダーの豊田哲也氏は「紙と電子での二重提出がコストアップにつながり、最後にCD－Rを提出することが電子納品の目的になっている」と問題点を指摘している。

アンケート調査は、土工協のCALS／EC特別委員会CALS／EC部会に設けた現場情報ワーキンググループが、17年3月に実施した。部会参加企業と同部会のネットワーク会員企業の中から40社、194現場を対象に調査した。対象となった現場の発注機関は国土交通省が73%、農林水産省が11%、都道府県が7%、残りは公団、事業団、市町村など。請負金額は2億円以上の工事が88%を占めている。

発注段階で受注者が受領したCAD図面は、国土交通省が電子納品で定めている「SXF形式」のものは、わずかに4%で、DWG形式とDXF形式のものが92%を占めた。また、CAD製図基準（案）に「すべて準拠した」とした答えは7%、「一部準拠していないものがある」とした答えは10%、「準拠していない」とした答えは61%、「わからない」とした答えは22%。





電子納品運用、全国一律の意見

「準拠していない」の回答を合わせると、71%の現場で基準（案）を満たしていないCAD図面が発注者から渡されている。

反対に、納品の際に、初めから「CAD製図基準（案）に準拠」して作図したのは2%にすぎず、「完成図面段階で準拠させるよう変更した」のが5%、「納品段階で一括して変更」したのが11%、74%は「基準（案）に準拠せず、そのまま納品」している。

電子納品に関する事前協議は、23%が「発注側からの指示に従った」としているが、34%は「受注者側から発注者へ、納

った」とし、「発注側での事前協議に関する認識不足も見受けられる。

捺印が必要な書類については、納品時に電子データ（オリジナルファイル）と紙の二重提出を行ったのが23%、スキャニングデータと紙の二重提出が34%あった。検査についても、48%が「電子データを作成したにもかかわらず、竣工検査では紙での検査が中心だった」と答え、電子データと紙ベースの書類が混在し、二重の手間がかかっている実態が浮き彫りになった。

また、電子納品の効果は、作業効率は「デジタル写真については能率が上がった」との回答が23%あったが、33%が「全般的に余計な仕事が増えて困った」と答えた。コ

った」と答え、「コストダウン」になったと答えたのは9%だった。

このほか、回答者から電子納品の制度や運用面について「地方整備局、発注者ごとに運用に準ずることが問題。全国一律基準にすべき」とした意見や、「CAD製図基準（案）の理解や、基準（案）に準拠した図面の作成に時間がかかるといった」といった指摘があった。

調査結果について豊田氏は「電子納品を何のためにやっているのか理解されていない感がある。要領、基準類が微細にわたり、各地方整備局でも運用の仕方が統一されていないことも課題。本当に電子納品が必要な書類を絞り込むことも必要だ」と、話している。

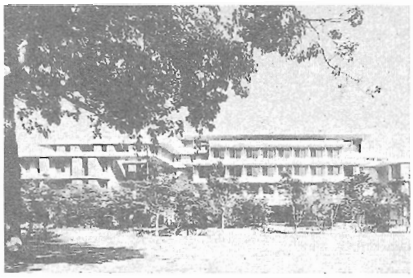
第46回BCS賞

本県 慈愛会奄美病院が受賞

建築業協会（BCS、野村哲也会長）は21日、第46回BCS賞として、応募70件の中から本県の慈愛会奄美病院（名瀬市）など17件（うち2件は特別賞）を選んだ。受賞作品については、作品集にして国内外に配布する。

受賞作品にはオフィスを中心とした複合施設、美術館、物販店舗、幼稚園など多彩な用途が選ばれた。

表彰式は11月8日に東京都千代田区のパレスホテルで開く。


名瀬市の慈愛会奄美病院

BCSでは「いずれも、デザインや機能が優れていることはもちろん、周辺環境や街並みへの配慮、地域との融合、新しい試みへのチャレンジなどの点で、BCS賞の趣旨に沿った素晴らしい建築作品」と講評している。

慈愛会奄美病院の設計は、日建設計・下舞建築設計事務所JV、施工は鴻池組が担当した。

国土交通行政功労者表彰

優良施工 工事部門 薩摩建設、上東建設 川内川河川

九州地方整備局川内川河川事務所は21日付けで、17年度国土交通行政功労者（優良施工業者・工事部門等）の所長表彰を発表した。

それによると優良施工業者・工事部門において、薩摩建設㈱（大島橋下部工その他）など2社、優秀現場代理人部門で田中講史氏（㈱山下組）、優秀技術者部門で宇都洋一氏（応用地質㈱九州支社）ら2人が表彰を受ける。

なお、表彰式は26日午前10時30分から、薩摩川内市の同事務所で行われる。

表彰者は次の通り。

【優良施工業者（工事部門）】

▽薩摩建設㈱＝大島橋下部工その他

▽㈱上東建設＝川畑樋門外2件改善その他

【優秀現場代理人部門】

▽田中講史氏（㈱山下組）＝綿打川中流護岸その他

【優秀技術者部門】

▽宇都洋一氏（応用地質㈱九州支社）＝しらす堤防強化対策検討業務

▽野田廣司氏（日鉄鉱コンサルタント㈱九州支店）＝川南地区護岸測量設計その他業務

堂園遺跡A地点 あす、現地説明会

県立埋蔵文化財センターは23日、南薩縦貫道（川辺道路）の整備に伴い発掘調査を進めている堂園遺跡A地点（川辺町神殿）で現地説明会を開く。当日は、2回に分けて、遺跡概要の説明や現場見学等を行う。

夏休み防災体験ツアー きょう、研修センター等で

県はきょう22日午前8時30分から、小学生等を対象とした「夏休み防災体験ツアー」を実施する。当日は、県防災研修センター等で施設見学や体験学習等を行う。

カシオ「楽一」 きょう、新機種展示会

日本システム㈱はきょう22日午前10時から、カシオ「楽一」新機種展示会を鹿児島市の同社ショールームで開く。

今度の新しい「楽一」は、手書きペンボードや見積書・請求書などさまざまな用紙への印刷、見積もり管理や工事・費用管理など従来の機能に加え、Excelで作成した見積もり内容の取りこみを可能にするなど、事務の流れをそのままに楽一ならではの簡単操作を追求した機種となっている。

問い合わせ先は、日本システム㈱（鹿児島市荒田2丁目56－10 ☎099・256・5930）。

レイコの週末キッチン vol.16

今夜の簡単レシピ

具たっぷり冷やしうどん

◎材料（4人分）

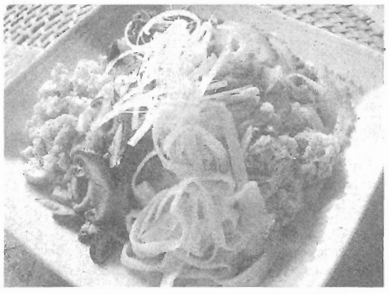
うどん（乾麺） 4人分
卵 3個
ツナ 小1缶
油揚げ 1枚
干しシイタケ 6枚
ニガウリ・小松菜・長ねぎ各適宜

a（砂糖・しょうゆ各大さじ2）
b（砂糖・塩各少々）

サラダ油 大さじ1
めんつゆ・すりゴマ・ゆずこしょう各適宜

【つくり方】

1、うどんはゆでて、水洗いをする。
2、干しシイタケはもどしてから鍋に入れ、もどし汁をひたひたになるように加え、aを入れて汁気がなくなるまで煮て、せん切りにする。
3、卵はbを加えて薄焼き卵を作り、太めのせん切りにする。
4、ツナ缶はよく油を切り、油揚げはさっと焼いて粗みじん切り、ニガウリは塩もみしてからせん切り、小松菜はゆでてざく切り、ねぎは白髪ねぎにする。
5、器に1を盛り、2～4の具を彩りよく飾って、すりゴマとゆずこしょうを加えためんつゆをかける。


冷たい麺類がおいしい季節ですが、気になるのが栄養バランス。具だくさんの冷やしうどんで夏バテを防ぎましょう。